

あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第34号

2014年3月15日発行

*** 目次 ***

1. 採って食べよう
2. ちばエコ農産物の認証手続
3. 消費者生活展
4. 野菜のカレンダー（学校給食用）
5. エコ農家視察
6. 新年ちびっ子餅つき大会 2014
7. 野菜づくり、家庭菜園でのポイント
8. 我孫子市民 フェスタ 2013（アビフェス）
9. 年末のつどい
10. 編集後記

1. 採って食べよう

販路拡大・食育交流部会

- ・平成 25 年 11 月 24 日（日）10 時～13 時
 - ・場所：布佐の細涑・今村農園
 - ・何を採った：ジャガイモ・サツマイモ
 - ・何を食べた：カレーライス
 - ・参加者 : 33 名
- 新木小・布佐小の児童をはじめ我孫子の東から西までの子どもと親が集まった。



細涑さん・今村さん

- 感想：男の子① 楽しかった、掘ったのがたのしい。
男の子② イモがたくさん取れてうれしい。
女の子① いろんな野菜が取れてうれしい。
またやりたい気分になった。野菜とかが勉強になった。
- 大人① 援農で我孫子の人とかが知り合いになるので良かった
大人② 土地と関れて新鮮だった。
大人③ 今回で3回になるが、毎回子ども達が楽しそうだ、
自分からやるようになり積極的になった。
農家の苦労がわかり、クイズも楽しかった。



作業前のクイズ

発行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 米澤 外喜夫

住所：270-1155 我孫子市我孫子新田 22-4（直売所内）

（営業日 月・火・木）

Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail abikochisananchisyokyo@sky.plala.or.jp

URL <http://business4.plala.or.jp/chisan/>（平成 25 年 8 月より変更）

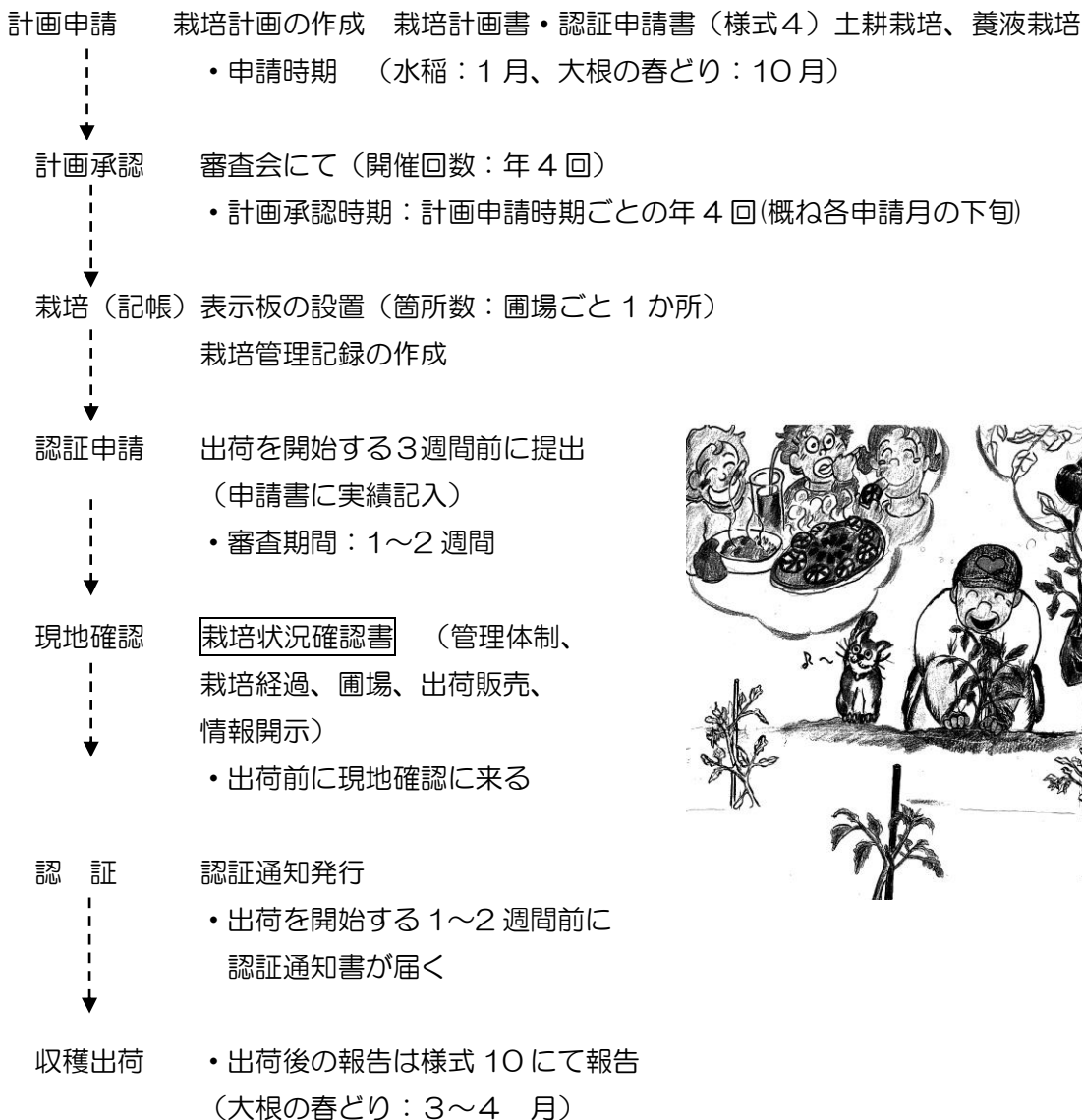
2. ちばエコ農産物の認証手続

(ちばエコ農産物の認証・県作成より)

ちばエコ農産物として出荷するまでの必要な手続は下記の通りです。

なお、ちばエコ農産物認証取得のための計画申請は、年4回(1月・4月・7月・10月)設けられています。申請の対象となる農産物は、審査会開催後に播種をする農産物が対象となります。

●計画申請から出荷実績報告までの主な流れ



●必要な主な書類の様式

- ・栽培計画の承認・認証—栽培記録・認定申請書(様式4)
- ・栽培計画の変更計画変更届書(様式7)
- ・生産・出荷及び認証マーク使用実績報告書(様式10)

3. 消費者生活展

第38回我孫子市消費生活展が2月8・9日（土・日）、あびこ市民プラザに於て開催されました。

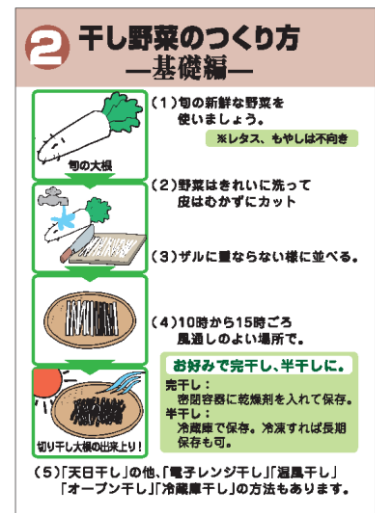
今回のテーマは「ちょっとの工夫でゆたかな暮らし」。

当協議会を含む10団体がパネル発表を通し、市民の皆様と交流を持ちました。

8日の夕方から関東地方は記録的な大雪となりましたが、9日の開場時には晴れ、2日間で430名の方が来場されました。雪の為、去年の来場者（627名）からは大幅に減少はしましたが、会場入口では我孫子市のゆるキャラ「うなぎちゃん」がお出迎えをし、ちびっ子の人気を集めていました。

当協議会（広報部）は「つくってみよう干し野菜」と題し、4枚のパネルにて発表をいたしました。

- ①「干し野菜の魅力」
- ②「干し野菜のつくり方
—基礎編—
- ③「実践編」
- ④「応用編」



来場者からは、「私もつくっているわよ！美味しいのよね〜！」

「半干し野菜は知らなかったわ。今度つくってみるわ！」

「今、話題のごぼう茶ね。つくってみようかしら・・・。」

「テーマに合った内容で良かったわ。現物の展示があればもっと良かった。」

などのお声をいただきました。（少々、反省）

現代はインターネットで何でも情報を得られる時代ではありますが、子供連れの若いご夫婦から高齢者の方までが、ひとつの空間で情報を共有し、交流する事は非常に意味があると感じました。



うなぎちゃんと田辺さん

震災以降、地域の「つながり」がクローズアップされていますが、我孫子には「つながり」を肌で実感できる「場」が多くあり、大都市で生まれ育った私には、それがとても新鮮に映りました。

我孫子の「優しさ」をあらためて感じる事ができました。感謝。

広報部会 田辺 裕子

4. 野菜のカレンダー（学校給食用）

学校給食支援部会 我孫子産地元野菜について

4者会議（教育委員会、農政課、地産地消協議会、あびこん）にて下記表を提出し、年間の給食計画の中で野菜注文を計画的に検討できるように行いました。

※我孫子産野菜の一般的な収穫状況についてのまとめです。

※天候状況により量・時期（月・上中下旬）・生育状況は変動します。※詳細は直近の案内でフォローしていく。

野菜	月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1 玉葱		×	×	△	○	△	△	×	×	×	×	×	
2 じゃがいも		×	△	○	○	○	○	○	○	○	△	×	
3 キャベツ		△	○	○	○	×	△	○	○	○	△	×	
4 人参		△	△	○	○	△	△	○	○	○	○	×	
5 トマト		○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	
6 大根		△	○	○	×	×	△	○	○	○	○	○	
7 ねぎ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
8 きゅうり		×	○	○	○	△	△	△	×	×	×	×	
9 小松菜		△	○	△	×	△	○	○	○	○	○	○	
10 かぼちゃ		×	×	×	○	○	○	△	△	×	×	×	
11 ほうれん草		○	○	×	×	×	△	○	○	○	○	○	
12 なす		×	×	○	○								
13 ピーマン		×	×	○	○								
14 かぶ		△	○	△	×	×	△	○	○	△	△	×	
15 いんげん		×	○	○	△								
16 きぬさや		×	○	△	△								
17 白菜						×	△	○	○	○	○	○	
18 チンゲン菜						×	△	○	○	○	○	○	
19 さつまいも						△	○	○	○	△	×	×	
20 里芋						×	△	○	○	○	○	△	
21 ごぼう						△	○	○	○	○	○	○	
22 他	にら		グリーンピス		枝豆					水菜	水菜	水菜	水菜
	なばな		スナップエンドウ		とうもろこし					春菊	春菊	春菊	なばな
			そら豆						フロッキー	フロッキー	フロッキー	フロッキー	フロッキー
○	収穫時期												
△	量、上中下旬にもよる												
×	手配無理												

5. エコ農家視察

エコ農産物普及推進部 今村直美

先日ある大学の先生の話に、「これからの農業は現世利益だけでなく来世利益を大事に考えていかなければ…」というような内容がありました。私は新規就農者として農業に向かうようになった者としてはもちろんのこと、一人の市民、子を持つ母親としても非常に共感できる話だと感じました。今の生活（現世利益）を求めつつも、代々大事にされてきた田畑を次世代に繋げていく、また田畑だけでなく手賀沼や緑多い我孫子を子どもたちに引き継ぎたいと思いますし、農業はその点について大きく貢献できるものだと思っています。

野菜の美味しさはやはり鮮度が一番！私が6年前にこの地域に引越しをしてきてまず驚いたのが、地元の野菜やお米の豊かさでした。なんと贅沢でありがたいことだと思いました。しかも求めれば直接農家さんと触れ合うこともでき、自分たちが食べているものについて知ることができます。こんなに安心して豊かなことがあるのでしょうか。しかし残念ながら、地産地消、ちばエコ農産物の推奨が言われるようになって久しいですが、なかなか消費者にも生産者にも十分に浸透していかないという話も聞きます。これからは両者が同じ目線、同じ目標に立ち、この素敵な我孫子を楽しみ、そして子どもたちへ残していくんだという想いを共有していくことこそが、結果的に好循環を生み出すのではないかと考えています。

そんな中、2月7日にエコ農産物普及推進部会が既にちばエコに取り組んでいる印西市の農家及び直売所の視察を企画され、農家6名を含む総勢10名が参加いたしました。以下、その報告をいたします。

① 五十嵐農園

- ・ちばエコ認証がスタートして以来取り組みを始め、他の農家との差別化を試みていた。
- ・栽培では、有機質肥料、菌肥料を有効的に利用し、化学肥料の利用を大幅に抑えた栽培をされていた。また、農薬については、耐病性品種の利用、生物農薬等を取り入れ、ちばエコ基準内で栽培を可能にしていた。
- ・60cm程度の高畝にし、灌水は苗が活着するまでの期間に限定し、水分を絞ることにより高糖度トマトを栽培。味の濃いトマトが評判で、直売所でも2玉500円程度と他のトマトの価格よりかなり高い設定だが、買い求める方は多いとのこと。
- ・土壌消毒は、栽培後、水を1か月程度はり、1か月かけて乾燥させる方法を実施。薬品を利用して消毒するより、確実に連作障害等を抑えることができるとのこと。
- ・「ニコニコみっちゃんトマト」という個別ブランドを作り、ラベル、袋等に印刷。加工品にも取り組んでいた（トマトジュース）。

② 農産物直売所「グリーブ」

- ・地域の農産物の他、生鮮食料品、お酒、加工品に至るまで、あらゆる品揃えがあり、小さなスーパーマーケットの様であった。
- ・ちばエコ農産物についての販売手数料が、一般の野菜よりも低く設定しており、ちばエコを推進している様であった。
- ・イートインのコーナーやベンチがあり、買い物だけでなくくつろげるスペースがあった。



ハウス内の五十嵐さん

③ JA 西印旛「とれたて産直館」

- ・館内は木の集積材を利用し、エコな雰囲気を出していた。
- ・グリーブ同様、産直館へ行けばほぼ何でもそろそろ品揃えがあった。
- ・調理室施設があり、多彩な層に対して料理教室を開催していた。

6. 新年ちびっ子餅つき大会 2014

毎年恒例の「新年ちびっ子餅つき大会 2014」は 1/18 (土)、ぽかぽか陽気の中、あびこ農産物直売所あびこん広場で開催されました。開催の趣旨は「子供たちにあびこ産のもち米を使った餅つきの体験をしてもらい、日本の伝統文化を学んでもらう」併せて「つきたてのお餅を食べて思い出づくりをしてもらおう」というもの。当協議会が主催し、今年で 6 回目。

「ヨーイショ、ヨーイショ」・・・スタッフの掛け声に合わせて、ちびっ子が、臼の餅をめがけて、杵を振り下ろす・・・「ペタンコ、ペタンコ」。

午前 10 時から午後 2 時まで、30 分毎に計 8 回実施、計 30 キロ分の餅をついてもらいました。1 回で、餅つきができるちびっ子の人数は 20~30 人ほど。計 8 回で約 200 人のちびっ子に餅つき体験をしてもらいました。

午前 10 時半ごろ星野市長が来場され、自ら杵を振るって、力強い“餅つきの技”を披露されました。

ついた餅は、小さく丸めて、お汁粉にし、来場者に振舞われました。会場広場では、我孫子ふるさと会による「新春獅子舞」、あびこ子供ネットワークによる「アートバルーン制作指導、ジュニアと遊ぼうゲーム」、我孫子市美術家協会有志による「似顔絵」コーナー、幼稚園父兄有志による「ぬいぐるみ・ゆるキャラパレード」(3 体) など、各団体の協力によるミニイベントがあり、会場は大いに盛り上がりました。

販売業者は「カレーや」「うどんや」「焼き鳥や」「たこ焼きや」「さかなや」「花や」「コーヒーや」など。「磯辺焼き」と「甘酒」は協議会で直売し、「ポップコーン」は無料で提供しました。2つの大型テントで作った「お休み処」は、お汁粉サービスや磯辺焼き、屋台の食事を楽しむ家族連れで賑わいました。

本大会の運営は実行委員会方式で実施しました。米澤会長をリーダーに各部会から選出した実行委員が 3 ヶ月前からプランを作成し、大会当日の役割分担は「部会割り当て方式」で行いました。臼や杵のもち米の手配や仕込みなど餅つき全般については「援農ボランティア受入農家有志」の皆さん、お汁粉サービスの仕込みから提供までは「販路拡大・食育交流部会」、磯辺焼きと甘酒は「広報部会」、会場整理とちびっ子の安全確保等は「学校給食支援部会」、駐車場の整理と誘導等は「援農ボランティア部会」、家庭菜園相談、エコ農産物 PR 等は「エコ農産物普及推進部会」、進行アナウンスやゴミ箱設置等は「総務部会」が担当する。またポップコーンの仕入から提供までは農政課の皆さんに担当していただきました。このほか当日参加のサポーターの皆さんも合わせると約



順番待つ行列！200人が体験



大丈夫かな！見守るスタッフ

50 名の方々が、朝 7 時半のテント設置から午後 4 時すぎのあと片付けまで、全員が気持ちをひとつにして取り組みました。大会は天候にもめぐまれて多数の来場者があり無事、成功裡に終了したことを会員各位にご報告します。最後に、会場を提供して頂き運営全般に最大限のご協力を頂いた「あびこ農産物直売所あびこん」、「農事組合法人あびベジ」の皆さんには、紙面を借りて厚くお礼を申し上げます。

(事務局記)

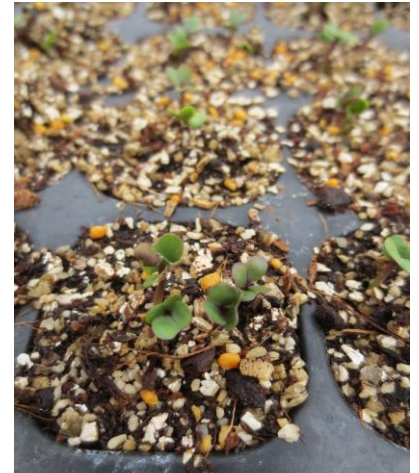
7. 野菜づくり、家庭菜園でのポイント

農家会員 日暮 俊一

まず野菜作りの前にタネの話をしてします。

タネは親から受け継がれた遺伝子（DNA）のカプセルとも言えます。

このカプセルは水分や温度条件などがととのうと生長点の細胞分裂のスイッチが入ります。そして、この生長点、実は根の先端の生長点と芽の部分の生長点と2つあります。水分や温度などの条件により発芽のスイッチが作動する訳ですが、まず根の先端の生長点が急激な分裂を開始して、白く細長い、いわゆる主根が伸びます。そしてある程度伸長し、根としての役割が開始〈吸水など〉される頃今度は芽の生長点が盛んに細胞分裂を開始し、現実には、タネは人間の目には発芽イコール、芽の生長点あるいは展開葉・子葉などの露出という形で確認される訳です。即ち、土の中の見えない処では、野菜の成長を担保する為の根がいち早くその準備をし、目に見える地上部の植物体を支えているのです。言い換えると、野菜栽培のポイントは、目に見えない土の中が根にとってどれだけ良い環境であるかにかつきます。根の伸長にとっての好的環境といってもその土づくりは色々



発芽状況

ありますが、一般的には耕運土壌を深くし、堆肥などの発酵有機物などと併せて水はけの良い団粒構造にします。さらに雨が弱酸性である事など考えれば、酸土きょう性の石灰も適度に混和されている事などが基本です。

次に、毎年野菜を上手に作りづけるにあたっての注意点として、野菜を植物学的分類の見地から、同じ仲間の野菜を同じ場所に毎年連作しない事です。同じ野菜を同じ場所に何年も作付する事は最も好ましくない事です。

例えばトマト・ナス・ジャガイモは皆、ナス科の野菜です。これを繰り返していると、ずっとナス科の野菜だけを同じ場所に栽培している事になります。こうなるとナス科特有の病害虫（線虫、細菌など）が発生しやくすなり、いわゆる“いや地”現象を起こし、生育の減退とあわせて、生産量も著しく低下します。ブロッコリー（アブラナ科）、ネギ（ユリ科）、トウモロコシ（イネ科）、レタス（キク科）、キュウリ（ウリ科）、ニンジン（セリ科）、ハウレンソウ（アカザ科）など異なる仲間の野菜を上手にローテーションして栽培する事が大切です。



小松菜の発根状態

又、栽培過程での水やりはやり過ぎに注意する事です。雨が半月～1ヶ月と相当期間降らない時に、たっぷりと十分な水を時折りやる事がポイントです。少量の水を毎日の様に何回もやっていると表土は目詰まりを起こし、土の奥深く十分な根群が形成されません。

特にトマトなどは水が少し足りない位の方が甘くおいしいトマトになります

以上何よりも毎日の野菜の生長、変化を楽しみに、そして収穫した野菜の鮮度感を青空の下で体感して頂きたいです。

8. 我孫子市民フェスタ 2013 (あびフェス)

開催日時：平成 25 年 11 月 30 日 (土)・12 月 1 日 (日)
開催場所：我孫子市生涯学習センター (アビスタ)、手賀沼公園等
主 催：我孫子市市民活動サポート委員会
開催目的：市民活動や社会貢献活動について、市民の理解や参加を促すと共に、団体間の連携・交流の促進を目的とする。
我孫子型地産地消推進協議会は活動内容を紹介するパネル 4 枚と会報・リーフレットの配布を行った。



9. 年末のつどい

師走のはじめ12月7日(土)にケヤキプラザ9階ホールにて「あびこ型地産地消推進協議会」の年末のつどいが総会の後などを除き初めての全体での催しが立食パーティーで開催されました。

米澤会長・青木副市長挨拶に続き乾杯の音頭を徳本農政課長にお願いしました。出席者は74名になり会場が狭く見えるほどの賑わいでした、各部会紹介・農家紹介・援農10期生紹介・宮内さんの司会によるゲーム(野菜の重量当てクイズ)等があり肩の力の抜けた“つどい”になりました。立食料理は「ベジラボ」さんに用意していただきました。



米澤会長挨拶

10. 編集後記

- ・年度末になり思いがけない大雪に関東地方が襲われ、各地で農業施設の被害が広がっている、我孫子市内でも雪の重みでビニールハウスが潰れ中の資材が壊れたり、畑の農産物が雪の下になり収穫ができなくなった。自然現象による、農業への影響が近年とみに増えてきたが進化した人類の叡智により影響を減少することが出来ないものか。
- ・第11期総会は平成26年5月17日(土)にて午後1時より市民プラザで「1部：イベント、2部：総会 3部：会員懇親会」で予定されていますので多くの方の出席をお待ちしています。
- ・第2回新緑フェアが平成26年4月26日(土)に「あびこ農産物直売所あびこん」で開催されます。フリーマーケット・苗の販売と育て方・コンサート等が予定されています。〔雨天順延 27日(日)〕
- ・学校給食部会では実行委員を募集しております。主な仕事は週に数回給食用の野菜を学校別に仕分けしそれぞれの学校に届けます。連絡先は表紙のメールアドレス、電話・fax番号をご覧ください。